

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調査(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
----	------	----	--------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	3企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな	こうえきしゃだんほうじん てっせんかい			団体ウェブサイトURL
制作団体名	公益社団法人 鏡仙会			http://www.tessen.org/
代表者職・氏名	代表理事 観世暁夫			
制作団体所在地	〒	107-0062	最寄り駅(バス停)	表参道駅
	東京都港区南青山4-21-29			
電話番号	03-3401-2285			
ふりがな	こうえきしゃだんほうじん てっせんかい			団体ウェブサイトURL
公演団体名	公益社団法人 鏡仙会			http://www.tessen.org/
代表者職・氏名	代表理事 観世暁夫			
公演団体所在地	〒	107-0062	最寄り駅(バス停)	表参道駅
	東京都港区南青山4-21-29			
制作団体 設立年月	1918年5月			
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等	
	代表理事 観世暁夫(鏡之丞) / 理事 浅見慈一 馬野正基 観世淳夫 柴田稔 清水寛二 竹本幹夫 西村高夫 羽深(鶴澤)久 武川芳樹 / 監事 相原誠 北永久 / 事務職員 武川芳樹 藤岡美奈子 信沢千代子		正会員25人 / 観世暁夫(鏡之丞)、山本順之、北浪昭雄、永島忠彦、浅井文義、羽深(鶴澤)久、清水寛二、西村高夫、岡田晴義(麗史)、柴田稔、小野里(小早川)修、泉雅一郎、馬野正基、浅見慈一、北浪貴裕、野村昌司、長山桂三、谷本健吾、鶴澤光、安藤貴康、観世淳夫、青木健一、小野里(小早川)泰輝、片山清司(九郎右衛門)、大槻文藏	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	武川芳樹	
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	藤岡美奈子	
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	info@tessen.org			

制作団体沿革	<p>1918年 江戸後期の観世流宗家十五世観世左近の時に分家した、観世鏡之丞家を中心に設立 1952年 社団法人鏡仙会を設立 1955年 東京青山に鏡仙会舞台落成 1983年 鏡仙会能楽研修所竣工 2003年 鏡仙会八十周年記念能、鏡仙会能楽研修所二十周年記念能 2012年 公益法人認定を受ける 2014年 鏡仙会能楽研修所三十周年記念特別公演 2016年 青山能MIRAI第一回公演 2017年 ふらっと能楽体験@表参道開始</p> <p>広く舞台芸術の視野から能を見直すことで密度の高い舞台を実現し、復曲や新作能にも企画・参加するなど、鏡仙会の現代に生きる演能活動は高い評価を得ている。 現在は九世観世鏡之丞を中心に、年に20回程の主催公演をはじめ、教職員向けの能楽講座「教え方講座」、野外能や企画公演、子供のための能教室を随時行うなど、能の発展と普及に尽くしている。</p>		
学校等における公演実績	<p>○学生能狂言鑑賞実績 2001年～ 成城学園高等学校 2001年～ 跡見学園中学校高等学校 2005年～ 東洋大学 2006年～ 三輪田学園高等学校 2006年～ 早稲田高等学校 2011年～ 東京都立国際高等学校 2022年 星野学園</p> <p>○学生能狂言鑑賞と体験実績 2005年～ 横浜市西区内の小学校9校 2006年～ 専修大学松戸中学校 成蹊中学校、浦安市立入船中学校、田園調布学園ほか</p>		
特別支援学校等における公演実績	<p>2000年 ねむの木学園</p>		
参考資料の有無	申請する演目のWEB公開資料	無	
	※公開資料有の場合URL		
	※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID:	
		PW:	

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 公益社団法人 鉄仙会】

対象	小学生(低学年)	○	
	小学生(中学年)	○	
	小学生(高学年)	○	
	中学生	○	
企画名	ようこそ！能楽の世界へ！～能楽で観る鬼退治～		
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>狂言「柿山伏」/作者不明、『今昔物語集』巻二〇「天狗現仏坐木末語」等の説話を背景にして本曲が作られたとする説もある。 能「土蜘蛛」/作者不明、『平家物語』、『太平記』の巻」等に見える源氏名剣説話を素材とする。</p> <p>【プログラム構成】 オープニング(囃子演奏)/挨拶/狂言「柿山伏」鑑賞、狂言お話/休憩(応相談)/能の謡一節おさらい/能「土蜘蛛」鑑賞/質問コーナー</p> <p style="text-align: right;">公演時間 100 分</p>		
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名
	該当事項がある 場合	権利者名	許諾確認状況
演目概要	<p>■狂言「柿山伏」 およそ20分 修行から帰る途中の山伏が道端の柿を盗み食べているところへ、柿の畑主がやってくる。畑主は木陰に隠れた山伏をこらしめるため、ここにいるのは猿か、鹿かとどげけると、山伏は慌てて鳴きまわをして…</p> <p>■能「土蜘蛛」 およそ50分(省略箇所あり) 原因不明の病で伏している源頼光のもとに、怪しげな僧形の者が現れる。驚く頼光に、今の病状は我が仕業であることを告げ、土蜘蛛の姿を現し、千筋の糸を吐きかける…</p>		
演目選択理由	<p>■柿山伏 柿を盗んだ罪をどうにか隠そうする姿が笑いを誘う山伏狂言。柿を食べる仕草や、動物の鳴き声の真似など、見ている子どもたちも思わず真似したくなるような狂言独特の表現が随所に見られ、知的好奇心を刺激します。さらに登場人物の行動や心理を客観的に笑うのみに留まらず、人間の愛すべき部分を描く狂言の本質を味わっていただきたいと考えます。またこの狂言は教科書にも度々取り上げられており、馴染み深い演目でもあります。</p> <p>■土蜘蛛 土蜘蛛の巣の作り物や千筋の糸が乱れ飛ぶ舞台は圧巻で、迫力のある演出が人気の曲です。「土蜘蛛」は切能と呼ばれる、活劇のような一曲で、終曲まで視覚を楽しませる演出が散りばめられており、能の洗練された工夫が多く見られます。また、妖怪としての「土蜘蛛」は絵巻物や浮世絵、歌舞伎、そして現代においては漫画、アニメ、ゲームなどにおいても多く題材を取られ、ご存知の生徒さんも多いかもしれません。能での描かれ方と他の文芸で扱われる土蜘蛛を比較して鑑賞することもまた、子供たちの想像力・感受性をかき立て、鑑賞能力の向上に繋げることが出来ると考えます。</p>		
児童・生徒の共演、 参加又は体験の形態	<p>プログラムの「能の謡一節おさらい」の部分で、ワークショップで稽古をした「土蜘蛛」の謡の一部、または能の終演部に謡う「附祝言」をおさらいします。ワークショップに参加した生徒は能楽師と共演し、全生徒も謡を学びます。 能楽師との共演は希望により人数の限定も可能。</p>		
出演者	<p>シテ方 (うちシテ1名・ツレ1名、地謡6名、後見2名、働き2名) ※★は重要無形文化財保持者(総合認定) 観世鏡之丞★ 1956年生まれ、1960年初舞台。2002年に九世鏡之丞を襲名。2008年日本芸術院賞、2011年紫綬褒章を受ける。力強さと繊細さを兼ね備えた謡と演技には定評があり、東京および京都、大阪でも活躍するほか、海外公演にも多く参加している。公益社団法人鉄仙会代表理事、公益社団法人能楽協会理事。京都造形芸術大学評議員、都立国際高校非常勤講師。 観世淳夫 1992年生まれ、1996年初舞台。2002年「千歳」、2010年「石橋」、2012年「乱」、2016年「道成寺」を披く。公演のほかワークショップにも積極的に参加し、国内外で研鑽を積む。若き粗削りの芸に垣間見える気品には鏡之丞家の一跡が感じられる。次期当主として次世代の能界を担う能楽師の一人。 鶴澤久★、清水寛二★、西村高夫★、柴田稔★、小早川修★、馬野正基★、浅見慈一★、北浪貴裕★、長山桂三★、谷本健吾★、鶴澤光★、安藤貴康、青木健一、小早川泰輝 ワキ方 3名、囃子方 4名、狂言方 5名 シテ方観世鏡之丞家一門(鉄仙会)を中心に、気鋭の能楽師が出演いたします。</p>		
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	<p>出演者: 24 名</p> <p>スタッフ: 4 名</p> <p>合計: 28 名</p>	運搬	<p>積載量: 2 t</p> <p>車長: 5.5 m</p> <p>台数: 1 台</p>

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール)の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		0	時間程度
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	9時	9時～12時	13時～14時半	応相談	14時半～16時半	16時半

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認 します。(大規模な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	10日	10日	10日	10日	10日	
	11月	12月	1月	計	80日	
	10日	10日	10日			

※平日の実施可能日数目安をご記載ください。

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	150名(ワークショップ参加者、 希望により人数限定も可能)
		鑑賞人数目安	500名

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。



(図1)能舞台イメージ1
ホールでの設置図
所作台(床面の板)は使用せず、上物の大道具を使用



(図2)能舞台イメージ1
ホールでの設置図
所作台(床面の板)は使用せず、上物の大道具を使用



(図3)能舞台イメージ2
体育館フロアに舞台を設置した場合



(図4)「土蜘蛛」上演の様子
シア:観世鏡之丞

【公演団体名 公益社団法人 鍼仙会 】

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	150名
<p>ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>①能についてのお話(およそ20分) ・能とは/能の表現/能の約束/曲目様々など ・能「土蜘蛛」あらすじ 能の鑑賞に向けて概要をお話いたします。</p> <p>②型・謡稽古(およそ1時間) ・能楽師による仕舞の実演 ・グループに分かれて稽古 鑑賞時の能楽師との共演に向け、附祝言「千秋楽」を担当能楽師と稽古します。</p> <p>③ふりかえり、質問コーナー(およそ10分) 生徒の皆さんからの感想発表 「土蜘蛛」に関すること、能楽師に関すること、皆さんの疑問にお答えします。</p> <p>※休憩は応相談</p> <p>(90分程度)</p>		
<p>ワークショップの ねらい</p>	<p>能の言語・身体表現を通して、学校生活、世代間、国際社会でのコミュニケーション能力向上、他者と自己の認識力向上を目的とする。また自国の文化に対する理解を自らの身体を通して深めてもらう。 導入の「①能についてのお話」では、生徒それぞれが主体的にワークショップに参加できるよう、ワークショップのガイダンスとして、若手の能楽師が能の世界へと導く。 メインとなる「型・謡の稽古」では、若手能楽師による的確な指導のもと、能の身体表現を生徒全員が稽古する。非日常の動き、声の出し方を稽古する中で、生徒間の意見交換も積極的に促し、学び合う空間を作る。また、鑑賞日の共演に向けて稽古をすることで、緊張感を持って稽古に挑む職業、能楽師を疑似体験してもらう。 「ふりかえり、質問コーナー」では、稽古・発表後の感想・意見を述べ合い、皆で共有する。一度きりの体験で終わることがないよう、次回鑑賞に繋がるお話や、日常に還元ができるようなお話で締めくくる。</p>		
<p>その他ワークショップに関する特 記事項等</p>			

本事業への申請理由

【公演団体名

公益社団法人 鏡仙会

】

①本事業に対する取り組み姿勢

情報化、デジタル化が日々進む現代において、インターネットやタブレットなどは、学校生活へも普及し、年齢問わずに広く利用されやすいものとなった。インターネットを介して様々な知識や体験の機会が身近になった子供たちの環境において、それでもなお、目の前で行われている芸術活動を鑑賞し、体験するという経験は、何にも代え難いものであろう。また、同じ学び舎で一つの芸術を鑑賞することは、その場限りのものではなく、鑑賞後に友達同士で感想を交わすコミュニケーションの場となり、今後の学習の意欲に繋がる架け橋となる。

そのような鑑賞に導くためにはまず、子供たちの目線に立って能がどのように見えているかを知り、興味を伸ばし、浮かんた疑問には能楽師としての一つの回答を出していく事が重要だと考える。専門的な用語はできるだけ簡潔にはっきりと示し、物語の内容解釈等については余白を残し、それぞれの考えを尊重したい。

能は伝統芸能として遥か昔の物語を演じていると捉えられがちだが、曲のテーマはシンプルかつ普遍的で、現代を生きる私たちが共感できるものが多くあり、だからこそ能は650年以上、演じ続けられてきた。

大きな声が第一の基本となる謡、地に足をつけて自力で表現する舞、そういった人間の力で行う芸能を、「体験・共演」を通して子供たちに実感してもらい、発見や気づきのある鑑賞に導けるよう尽力する。

また私たち鏡仙会は現代に生きる能を演じ、国内外での公演や役者個人主催の会等を活発に行っている。第一線で活躍する演者が揃う、「鏡仙会の能を観た」という記憶を、鮮烈で良きものとなるよう努め、能楽の発展、子供たちの芸術鑑賞能力向上の一端となるよう尽力する。

②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

私たちは普段備え付けの能楽堂舞台で演能することがほとんどであり、学校体育館という空間での上演はイレギュラーなものである。お互いの不安解消のため学校側と連絡を密に取り、打合せを行い、これまで行ってきた学校公演のノウハウも活かし、臨機応変に対応していきたい。

また、事前の打合せにおいて子供たちの様子や先生方の要望を伺い、それぞれの学校に寄り添った鑑賞会となるよう、尽力する。

本事業に対する
取り組み姿勢、および
効果的かつ円滑に実施するた
めの工夫